新しい茶種苗の供給体制と種苗法について

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
野菜茶業研究所*
根角厚司

Newly Supply System of Tea Cultivars and an Outline of the Seeds and Seedlings Low on Tea

Atsushi Nesumi
National Institute of Vegetable and Tea Science
National Agriculture and Food Research Organization

1 はじめに

わが国の茶育種の歴史を遡ると、明治時代初頭に行われた多田元吉による海外遺伝資源の導入にたどり着く¹⁾。その後、杉山彦三郎に代表される多くの民間育種家や国・府県など公的研究機関が品種改良を行い、その結果今では、わが国で育成された品種は100を越えている（別表1～7）。しかし、現在わが国

の全茶園面積の約8割を‘やぶきた’一品種が占めているのが現状であり²⁾、労働の集中化、病虫害の多発、香味の画一化など、一品種寡占状態による多くの弊害が生じている。‘やぶきた’の栽培面積が急速に増加したのは1965年以降のことであり²⁾（図1）、現在、多くの茶園が改植時期にさしかかっていることから、計画的な改植が必要になっている。

一方、近年の健康志向の高まりや緑茶ドリ

図1 品種化率の推移

—◆— 在来種 —□— 全品種 - - ▲ - - やぶきた

(社団法人日本茶業中央会 平成18年度茶園関係資料より)

*〒898-0087 鹿児島県枕崎市瀬戸町87

シクの需要の急増により、国内における茶の消費量は伸びている。そして、嗜好や用途の多様化、安全・安心への要求の高まりなどから、新しい品種への期待も高まっている。

これまで、永年生作物である茶において、栽培している茶樹を改植して新品種に切り替えることは容易ではなかった。しかし、‘やぶきた’の古い茶園が改植時期にさしかかった今、新品種への期待は高まっており、新品種種苗の需要は増大している。そのような状況下で、新品種の種苗がなかなか入手できない、あるいは海外に日本で育成された新品種が流出するなどの問題も生じており、種苗の供給体制の見直しや、種苗法の周知と遵守への取り組みが必要となった。

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）野菜茶業研究所では、2005年に種苗法の一部改正や、2005年度からの独立行政法人種苗管理センター（以下、種苗管理センター）の茶原種苗配布事業の終了（原種穂の配付業務は移行措置として2006年度まで行う）を受けて、茶新品種の許諾と原種穂の配布方法について関係機関と協議を行い、農研機構が育成者権を有する茶品種についての許諾契約の方法および原種穂の供給体制の変更を行った。

ここでは、新しい種苗法の骨子と、農研機構における新たな茶品種の許諾および種苗の供給体制について解説する。

2 種苗法

種苗法は、新品種の保護のための品種登録に関する法律で、品種育成の振興と種苗流通の適正化により農林水産業を発展させることを目的とした法律である（種苗法第1条）。1978年に種苗法が制定されるまで、わが国では1947年に公布された農産種苗法に基づき、不良種苗の取り締まりと優良種苗育成の助長を行ってきた。しかし、1978年に改正された植物の新品種の保護に関する国際条約

（UPOV条約：Union internationale pour la protection des obtentions vegetales）に加盟するため、その内容に適合するように整備された。UPOV条約は1991年にも改正されており、わが国の種苗法もそれに合わせて、1998年に全面改正を行い、その後は情勢の変化に応じて法律の一部が改正されてきた。最近では違法に持ち出された新品種の種苗が育成者権者に無断で利用され、その収穫物が加工されてわが国に輸入されるという問題に対応するため、2005年6月17日に種苗法施行令の一部が改正され（政令第348号）、同年12月1日から施行された。改正内容の要点は以下の二つである。一つ目は、加工品への育成者権の効力の拡大であり、茶（葉または茎を製茶したもの）、小豆（豆を水煮したもの（砂糖を加えたものを含む）及びあん）、いぐさ（ござ）、稲（米飯）がこれに指定された。二つ目は、育成者権の存続期間の延長であり、茶や果樹など永年生植物では25年を30年、その他の植物では20年を25年へと延長された。したがって、育成者権のある品種については、正規の種苗を用いて国内で生産された加工品については問題にはならないが、違法性のある種苗から生産された加工品については国内生産であっても種苗法違反となることに注意する必要がある。

3 種苗法に違反した場合の罰則

種苗法に違反した場合、以下のような罰則が適用される。(1)刑事罰として、個人に対しては3年以下の懲役又は300万円以下の罰金、法人では1億円以下の罰金、(2)民事上の請求として、①損害賠償請求、②侵害行為した種苗や収穫物の海外への生産・販売等の差し止め請求、③無断利用によって権利者が被った信用の低下を回復するための措置の請求などである。

以前は、茶の品種識別が難しく、違法性の

証明は困難であった。しかし、最近ではDNA鑑定による品種識別技術が確立され^{3,4)}、微量元素による原産国の推定もある程度の精度で可能となり、関税法による育成者権を侵害した物品に対する輸出入の差し止め請求を行うことにより、輸出入品に対しても水際で食い止めることが可能になってきた。

4 茶新品種に関する許諾契約の方法

これまで農研機構が育成者権を有する茶品種については、各府県で指定された代表団体から申請があった場合に、農研機構が品種ごとに許諾契約を結んでいた(図2)。そして、多くの種苗生産者は、許諾を結んだ代表団体の傘下に入り、取り扱い実績の報告を代表団体に対して行う方式をとってきた。しかし、この方法では、(1)代表団体が許諾契約を結んでいない品種の取り扱いができない、(2)代表団体が府県単位の組織の場合、府県をまたがった流通が制限される可能性がある、(3)代表団体の傘下に入ることができなければ新品種の種苗を扱うことができない等の問題が生じていた。そこで、2006年度からは、公的な機関や団体、あるいは種苗生産グループ、個人に対して、農研機構が一定の要件(業としての種苗生産、これまでの販売実績、信頼性、等)を満たしていると認めた者は、申請があれば許諾契約を結ぶことができることとした(図3)。これまでにすでに許諾を結んでいる団体については、契約解除の申請がない限り、従来通りの内容でそのまま継続されることとなる。また、本年度から許諾申請先は、農研機構本部総合情報管理部知的財産センターに対して行うこととなったため、種苗の販売額に応じて支払う許諾利用料については、農研機構本部総合情報管理部知的財産センターに確認する必要がある。なお、これまでに一件でも許諾契約を結んでいる品種の場合、その品種の利用料率は、新規の許諾申請者に対して最初に定められた利用料率が適用さ

れる。許諾契約を結んだ種苗生産者は、野菜茶業研究所のホームページや各府県への連絡文書、商業誌等に、希望しない場合を除き公表する予定である。

5 種苗管理センターによる原種苗配布業務の終了と新たな原種穂供給体制

これまでの茶種苗の流通は、許諾契約を結んだ代表団体が県知事を通して地方農政局に対し採穂園設置場所の申告と茶原種の配布申請を行い、農政局は種苗管理センターに対して、原種苗の配付要請をすることになっていた。その結果、種苗管理センターから申請を出した団体に対して原種苗が配布され、配布を受けた団体は採穂園を設置し、そこから傘下の種苗生産者に苗木生産用の穂を供給するというシステムとなっていた(図2)。しかし、2005年度をもって種苗管理センターがその業務を終了することとなったため、原種穂の配布を育成場所である野菜茶業研究所(金谷茶業研究拠点および枕崎茶業研究拠点)で行うことになった(図3)。前述したとおり、2006年度は移行措置として種苗管理センター知覧農場が原種穂の供給をすることになっているが、2007年度からは野菜茶業研究所で原種穂の配布を行うため、新たに農研機構と許諾契約を結ぶ時には、採穂園用の原種穂を野菜茶業研究所に対して申請する必要がある。原種穂はあくまで採穂園用であるので、一件あたり100本程度を限度とし(申請者数に応じて変動有り)、有償で配付することを予定している。ただし、育成者権の切れた品種についてはこの限りではない。

6 すでに流通した無許諾苗およびその生産物の取り扱いについて

前述したとおり、新しい種苗法では、育成者権を侵害した種苗で生産された加工品についても育成者権の侵害と見なされ、種苗法違反となる。自家増殖が容易な茶では、無許諾

図2 これまでの(独)農研機構育成品種における許諾の方法と種苗の流れ

図3 これまでの(独)農研機構育成品種における許諾の方法と種苗の流れ

で流通した新品種の種苗も多いと言われるが、これは種苗法が十分に理解されていないことが大きな要因と考えられる。しかしながら、安心・安全への関心が高まる中、トレーサビリティへの対応も進んでおり、今後、違法種苗から生産された茶の取引を控えようとする動きも出ており、違法種苗で流通した状態のまま放置することは、生産者にとっても大きな問題となる可能性がある。そこで、これまで違法とは知らないで新品種の種苗を生産、販売してしまった種苗生産者は、すみやかに許諾申請を行い、過去に種苗生産に用いた母樹が当該品種であることをDNA鑑定で証明した書類を示し、遡って許諾実施料を支払うことで、過去に違法性のあった種苗を正規の種苗と見なす救済策を検討中である。ただし、無許諾で育成者権のある種苗を生産・販売し、今後も許諾申請を行わない場合は、種苗法違反として取り締まりの対象となる。また、生産者が流通業者や消費者から、生産している新品種の茶種苗が違法性のないものである証明を求められた場合は、正規の種苗業者から購入したことがわかる書類等を提示しなくてはならない。

なお、DNA鑑定は以下の機関に依頼して行うことができる。

機関名：（財）日本食品分析センター千歳研究所

連絡先：〒066-0052 北海道千歳市文京2-3
（電話番号：0123-28-5911）

7 自家増殖について

自家増殖は、本来育成者の権利を侵害するものであるが、わが国では従来から農業者の慣行として行われてきたことに鑑み、一定の要件の下で、育成者権者の許諾を得ずに収穫物を種苗に転用することが認められている（種苗法第21条第2項）。ただし、契約で別段の定めをしたとき、および農林水産省令で定める栄養繁殖をする植物に属する品種の種苗

を用いる場合は自家増殖はできない（種苗法第21条第3項）。茶の場合、自家増殖は許されているが、増殖した種苗を他人に販売したり譲渡してはならない。言うまでもなく、元になる種苗は正規に入手したものでなくてはならない。また、正規の種苗であっても、有償、無償にかかわらず、育成者権者の許可無く国外に持ち出すことは厳禁である。

8 なぜ種苗法を守らなくてはいけないのか

茶は容易に自家増殖できるため、一度普及し始めると、無許諾の種苗がいつの間にか回り、育成者の権利が侵害されていることある。苗の生産者も、種苗法に関する知識がない場合、自家増殖の延長線と考える人も少なからずいると思われる。

しかし、品種の育成には長い年月が必要であり、チャでは20年以上の歳月と、多くの人がかかわって品種ができあがる。このように育成された品種を違法に生産・販売することは、育成者の権利を侵害し、品種開発の発展を阻害するものである。種苗法では、育成者権が消滅していない場合、この権利は「登録品種の種苗の生産、又は当該種苗を調整する行為、譲渡の申出、譲渡、輸出、輸入、若しくはこれらの行為をする目的をもって保管する行為に対して効力が及ぶ」とされており（種苗法第21条第1項）、育成者に無断で生産、販売を行うことだけでなく、無断で譲渡したり、国外へ持ち出す行為も禁止されている。

最近、イチゴ、カーネーション、イグサ、柑橘など多くの農産物で、国内で育成された品種が国外で栽培され、違法に日本で販売され、国内の生産者に損害を与えるといった問題が生じている。チャにおいても、国内の新品種が国外で生産されることは、国内茶産業に大きな損害を与える可能性を秘めていることを承知しておく必要がある。

9 許諾申請の方法

農研機構が育成した茶品種(命名登録品種)の許諾申請は、これまでは各県毎に一つにまとめて、農研機構へ申請されていた。しかし、今後は個別の団体や個人でも申請が可能となったこと、2006年に農研機構が組織再編を行ったことに伴い、新たに許諾を得たい者が、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構本部総合情報管理部知的財産センターに申請することとなった。

農研機構本部総合情報管理部知的財産センターに対して新たに許諾申請を行う時は、野菜茶業研究所に対しても原種穂の配付申請と採穂園設置場所の申告を行う必要がある。野菜茶業研究所は、農研機構本部総合情報管理部知的財産センターから利用許諾締結の通知を受けてから、原種穂の提供を行う事となっている。

許諾申請先、原種穂の配付申請及び育成品

種の問い合わせ先は下記の通りである。

【許諾申請先】

機関名：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構本部総合情報管理部知的財産センター種苗係

連絡先：〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1（電話番号：029-838-7390、FAX番号：029-838-8905）

【農研機構が育成者権を有するチャ品種の原種穂の配付申請先及び問い合わせ先】

機関名：野菜茶業研究所企画管理部業務推進室運営チーム

連絡先：〒514-2392 三重県津市安濃町草生360（電話番号：052-268-4623）

機関名：野菜茶業研究所金谷茶業研究拠点茶育種グループ

連絡先：〒428-8501 静岡県島田市金谷2769（電話：0547-45-4101）

表1 育成者権のある命名登録品種と育成者

(2006年12月現在)

品種名	農林登録番号	登録年月日 ¹⁾	登録番号	登録の有効期限	育成者権の満了日	育成者権者名 ²⁾
しゅんめい	茶農林37号	1990/4/3	第2159号	18年	2008/4/3	農研機構
みねかおり	茶農林38号	1990/4/3	第2157号	18年	2008/4/3	宮崎県
みなみかおり	茶農林39号	1990/4/3	第2158号	18年	2008/4/3	宮崎県
さえみどり	茶農林40号	1991/11/19	第2881号	18年	2009/11/19	農研機構
ふうしゅん	茶農林41号	1993/10/13	第3697号	18年	2011/10/13	農研機構
みなみさやか	茶農林42号	1994/3/14	第3932号	18年	2012/3/14	宮崎県
ほくめい	茶農林43号	1995/11/8	第4775号	18年	2013/11/8	埼玉県
べにふうき	茶農林44号	1995/8/17	第4591号	18年	2013/8/17	農研機構
りょうふう	茶農林45号	2001/8/16	第9204号	25年	2026/8/16	農研機構
むさしかおり	茶農林46号	2001/10/12	第9306号	25年	2026/10/12	埼玉県
さきみどり	茶農林47号	2001/8/16	第9203号	25年	2026/8/16	宮崎県
はるみどり	茶農林48号	2003/3/17	第11102号	25年	2028/3/17	農研機構
そうふう	茶農林49号	2005/2/7	第12706号	25年	2030/2/7	農研機構
さいのみどり	茶農林50号	2006/2/27	第13753号	30年	2036/2/27	埼玉県
はるもえぎ	茶農林51号	2006/2/27	第13755号	30年	2036/2/27	宮崎県
みやまかおり	茶農林52号	2006/2/27	第13754号	30年	2036/2/27	宮崎県
ゆめわかば	茶農林53号	出願中				埼玉県
ゆめかおり	茶農林54号	出願中				宮崎県

1)登録年：種苗法に基づく品種登録年月日

2)野菜茶業研究所の育成品種は農研機構(独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構)、指定試験地の育成品種は各場所の所在県が育成者権を有する。

機関名：野菜茶業研究所枕崎茶業研究拠点茶
育種グループ

連絡先：〒898-0087 鹿児島県枕崎市瀬戸町
87（電話番号：0993-76-2126）

なお、国費による茶の育種事業は野菜茶業
研究所だけでなく、茶育種指定試験地である
埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所
および宮崎県総合農業試験場茶業支場におい
も行われている。これらの場所で育成された
品種（命名登録品種）に関する問い合わせ窓
口は以下の通りである。

機関名：埼玉県農林部生産振興課品種登録・
種苗センター

連絡先：〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和
区高砂3-15-1（電話番号：048-830-4198）

機関名：宮崎県総合農業試験場茶業支場育種
科

連絡先：〒889-1301 宮崎県児湯郡川南町大
字川南17070（電話番号：0983-27-0
355）

農研機構および指定試験地が育成した品種
で、育成者権が存在する品種を表1に示す。

育成者権が切れた品種に関しては、その取
り扱いは自由である。しかし、増殖が容易で
見分けのつきにくい茶においては、一旦間違
った品種名で流通したり、他品種が混ざった
状態で流通すると大きな混乱のもとになるの
で、古い品種であっても種苗の取り扱いに際
しては十分な注意が必要である。

10 おわりに

付加価値が高く、多くの国で栽培され、世
界的に流通する茶は、18世紀にはすでに国際
競争の中にあった。アメリカ独立戦争の導火
線となったボストン茶会事件（1773年）や列
強による中国の植民地化のもととなったアヘ
ン戦争（1840～1842年）など、茶が世界史を

揺るがす大事件にも関与していたことはあま
りにも有名な史実である⁵⁾。19世紀には、い
くつかの生産国において、優良な産地からの
種子の導入が始まっており、このころすでに
品種の重要性が認識され始めている。

わが国においても、1876年に元幕臣であっ
た多田元吉が中心となって、中国より種子を
購入、持ち帰って以来、海外遺伝資源の導入
や品種改良が続けられてきた⁶⁾。

近年、機能性成分高含有品種として注目さ
れている‘べにふうき’は、多田がインドよ
り導入した系統の実生から選抜された‘べに
はまれ’（茶農林1号）が片親に使われている。
したがって、‘べにふうき’が品種登録
（1995年、命名登録は1993年）され、現在の
ように機能性成分が注目されるようになるま
では、遺伝資源の収集、保存、評価、それ
を用いての品種育成、その後の機能性の解明
や栽培法、加工法の改良など、実に多くの関
係者が関わっている。このような品種が、海
外に流出し、その結果日本向けに逆輸入され
るようなことになれば、育成者の権利が侵害
されるだけでなく、わが国の茶産業にとっ
ても大きな損失となることは言うまでもない
ことである。

最近では多様化した需要に応えるため、
様々な育種目標ををかけて品種改良が進めら
れている。国内茶産業を守り、消費者のニー
ズにも迅速に応えるためには、新しい種苗法と
種苗の流通体制の下、品種の健全かつ速やか
な普及が望まれる。

11 謝 辞

本稿の作成にあたり、貴重なアドバイスを
いただいた、野菜茶業研究所企画管理部業務
推進室の若松正文氏、農研機構本部総合情報
管理部知的財産センターの白石恵子さんに深
く感謝申し上げます。

12 引用文献

- 1) 川口国昭 (1997)：茶業開化-明治発展史と多田元吉. 山童社, 東京, pp72-194.
- 2) 社団法人日本茶業中央会 (2006)：平成18年版茶関係資料. 社団法人日本茶業中央会, 東京, 24.
- 3) Kaundun, S.S., Matsumoto, S. (2003)：Identification of processed Japanese green tea based on polymorphisms generated by STS-RFLP analysis. *Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 51: 7, 1765-1770.
- 4) Kaundun, S.S., Matsumoto, S. (2003)：Development of CAPS markers based on three key genes of the phenylpropanoid pathway in tea, *Camellia sinensis* (L.) O.Kuntze, and differentiation between *assamica* and *sinensis* varieties. *Theoretical and Applied Genetics*, 106: 3, 375-383.
- 5) 松崎芳郎 (1992)：年表茶の世界史. 八坂書房, 東京, pp138-154.
- 6) 武田善行 (2004)：茶のサイエンス. 筑波書房, 東京, pp38-40.

13 参考情報

本稿に関連する情報についてWeb上で公開されている主なURLを下記に示す。

- 1) 財団法人日本食品分析センター
<http://www.jfirl.or.jp/>
- 2) 茶の新品種の取扱いに関するQ & A (野菜茶業研究所)
<http://vegetea.naro.affrc.go.jp/QandA/QandA.htm>
- 3) 農研機構の知的財産 (農研機構知的財産センター)
<http://www.naro.affrc.go.jp/patent/>
- 4) 品種登録情報 (農林水産省生産局種苗課)
<http://www.hinsyu.maff.go.jp/>
- 5) 緑茶の品種識別マニュアル (野菜茶業研究所)
<http://vegetea.naro.affrc.go.jp/joho/manual/chashikibetsu.pdf>
- 6) 緑茶の表示基準 (社団法人日本茶業中央会)
<http://www.nihon-cha.or.jp/hyouji/hyoujikijyun.pdf>
- 7) 食品表示と J A S 規格 (農林水産省食品安全局)
<http://www.maff.go.jp/soshiki/syokuhin/heyajasinindex.htm>

新しい茶種苗の供給体制と種苗法について

別表1 煎茶用品種（命名登録品種）

品種名	農林登録番号	来 歴	命名登録年	登録年 ¹⁾	登録番号	育成場所 ²⁾
あさつゆ	茶農林2号	宇治在来種実生	1953			茶業試験場(金谷)
みよし	茶農林3号	宇治在来種実生	1953			茶業試験場(金谷)
さやまみどり	茶農林5号	宇治在来種実生	1953			埼玉県立農試茶業支場
やぶきた	茶農林6号	静岡在来種実生	1953			静岡県茶業試験場
まきのはらわせ	茶農林7号	静岡在来種実生	1953			静岡県茶業試験場
こやにし	茶農林8号	宇治在来種実生	1953			静岡県茶業試験場
ろくろ	茶農林9号	在来種	1953			静岡県茶業試験場
やまとみどり	茶農林10号	奈良在来種実生	1953			奈良県農試茶業分場
なつみどり	茶農林16号	静岡在来種実生	1954			茶業試験場(金谷)
やえほ	茶農林17号	静岡在来種実生	1954			静岡県茶業試験場
はつみどり	茶農林20号	三重県から導入した実生	1954			鹿児島県茶業試験場
おくむさし	茶農林26号	さやまみどり×やまとみどり	1962			埼玉県茶業研究所
かなやみどり	茶農林30号	S8×やぶきた	1970			茶業試験場(金谷)
さやまかおり	茶農林31号	やぶきた実生	1971			埼玉県茶業研究所
おくみどり	茶農林32号	やぶきた×静在16	1974			茶業試験場(金谷)
とよか	茶農林33号	さやまみどり×やぶきた	1976			埼玉県茶業試験場
おくゆたか	茶農林34号	ゆたかみどり×F ₁ NN8(たまみどり×S6)	1983	1983	第455号	茶業試験場(金谷)
めいりよく	茶農林35号	やぶきた×Z1	1986	1987	第1388号	野菜・茶業試験場(金谷)
ふくみどり	茶農林36号	やぶきた×23F ₁ 107(さやまみどり×やぶきた)	1986	1988	第1556号	埼玉県茶業試験場
しゅんめい	茶農林37号	ゆたかみどり×F ₁ NN8	1988	1990	第2159号	野菜・茶業試験場(金谷)
みねかおり	茶農林38号	やぶきた×うんかい	1988	1990	第2157号	宮崎県総農試茶業支場
みなみかおり	茶農林39号	やぶきた×宮A11	1988	1990	第2158号	宮崎県総農試茶業支場
さえみどり	茶農林40号	やぶきた×あさつゆ	1990	1991	第2881号	野菜・茶業試験場(枕崎)
ふうしゅん	茶農林41号	Z1×かなやみどり	1991	1993	第3697号	野菜・茶業試験場(金谷)
みなみさやか	茶農林42号	宮A-6(たちば×宮F ₁ 9-4-48)×F ₁ NN27	1991	1994	第3932号	宮崎県総農試茶業支場
ほくめい	茶農林43号	さやまみどり×S607(やぶきた自然実生)	1992	1995	第4775号	埼玉県茶業試験場
りょうふう	茶農林45号	ほうりよく×やぶきた	1997	2001	第9204号	野菜・茶業試験場(金谷)
むさしかおり	茶農林46号	さやまかおり×硬枝紅心実生	1997	2001	第9306号	埼玉県茶業試験場
さきみどり	茶農林47号	F ₁ NN27×ME52	1997	2001	第9203号	宮崎県総農試茶業支場
はるみどり	茶農林48号	かなやみどり×やぶきた	2000	2003	第11102号	野菜・茶業試験場(枕崎)
そうふう	茶農林49号	やぶきた×静印雄131	2002	2005	第12706号	野菜茶業研究所(金谷)
さいのみどり	茶農林50号	さやまかおり実生	2003	2006	第13753号	埼玉県農総研茶業特産研究所
はるもえぎ	茶農林51号	F ₁ NN27×ME52	2003	2006	第13755号	宮崎県総農試茶業支場
みやまかおり	茶農林52号	京研283×埼玉1号	2003	2006	第13754号	宮崎県総農試茶業支場
ゆめわかば	茶農林53号	やぶきた×埼玉8号	2006	出願中		埼玉県農総研茶業特産研究所
ゆめかおり	茶農林54号	さやまかおり×宮崎8号	2006	出願中		宮崎県総農試茶業支場

1)登録年:種苗法に基づく品種登録年

2)育成者権者は表1を参照

別表2 煎茶用品種（登録品種）

品種名	来 歴	登録年 ¹⁾	登録番号	育成者権者名
星野緑	福岡県在来種	1981	第71号	井上十二生
司みどり	静岡県在来種	1984	第511号	山崎裕司
たかねわせ	やぶきた自然実生	1985	第898号	村松穂一
さとう早生	安倍1号自然実生	1986	第1025号	佐藤光輝
おくひかり	やぶきた×静Cy225	1987	第1387号	静岡県
いなぐち	やぶきた自然実生	1988	第1676号	稲口勝利
さわみずか	やぶきた×ふじみどり	1995	第4292号	静岡県
みねゆたか	やぶきた枝変わり	1996	第4835号	松下栄市
松寿	くりたわせ枝変わり	1996	第4952号	松下栄市
摩利支	杉山八重穂自然実生	1996	第4953号	山森美好・山森理佐雄
みえ緑萌1号	やぶきた自然実生	1996	第4954号	三重県
あさのか	やぶきた×Cp1号	1996	第5013号	鹿児島県
藤かおり	静印雑131×やぶきた	1996	第5072号	森園市二・小柳三義
山の息吹	やぶきた自然実生	1997	第5430号	静岡県
さがらひかり	やぶきた自然実生	1998	第6684号	中村孫一
さがらみどり	やぶきた自然実生	1998	第6685号	中村孫一
香駿	くらさわ×かなやみどり	2000	第8131号	静岡県
さがらかおり	やぶきた自然実生	2000	第8132号	中村孫一
さがらわせ	やぶきた自然実生	2000	第8133号	中村孫一
みどりの星	やぶきた自然実生	2001	第9305号	中村孫一
りょくふう	自然交雑実生	2002	第9652号	白鳥俊男
つゆひかり	静7132×あさつゆ	2003	第11103号	静岡県
みえうえじま	在来実生	2003	第11368号	上嶋 親
きら香	やぶきた枝変わり	2006	第14307号	竹内清美・竹内忠義

1) 登録年: 種苗法に基づく品種登録年

新しい茶種苗の供給体制と種苗法について

別表3 釜炒り茶・玉緑茶用品種

品種名	農林登録番号	来歴	命名登録年	登録年 ¹⁾	登録番号	育成場所 ²⁾
たまみどり	茶農林4号	宇治在来種実生	1953			茶業試験場(金谷)
たかちほ	茶農林11号	宮崎県在来種実生	1953			宮崎県総農試茶業支場
いずみ	茶農林24号	べにほまれの実生	1960			九州農業試験場
やまなみ	茶農林27号	中国湖北省導入実生	1965			宮崎県総農試茶業支場
うんかい	茶農林29号	たかちほ×宮F, 9-4-48	1970			宮崎県総農試茶業支場
みねかおり	茶農林38号	やぶきた×うんかい	1988	1990	第2157号	宮崎県総農試茶業支場

1)登録年:種苗法に基づく品種登録年

2)育成者権者は表1を参照

別表4 玉露・てん茶用品種

品種名	農林登録番号	来歴	命名登録年	登録年 ¹⁾	登録番号	育成場所
あさぎり	茶農林18号	宇治在来種実生	1954			京都府立茶業研究所
きょうみどり	茶農林19号	宇治在来種実生	1954			京都府立茶業研究所
ひめみどり	茶農林23号	福岡在来種実生	1960			九州農業試験場
寺川早生		宇治在来種実生		1990	第2092号	寺川俊男
成里乃		宇治在来種実生		2002	第10751号	堀井信夫
奥の山		宇治在来種実生		2002	第10752号	堀井信夫
鳳春		さみどり自然交雑実生		出願中		京都府立茶業研究所
展茗		さみどり自然交雑実生		出願中		京都府立茶業研究所

1)登録年:種苗法に基づく品種登録年

別表5 紅茶用品種

品種名	農林登録番号	来歴	命名登録年	登録年 ¹⁾	登録番号	育成場所 ²⁾
べにほまれ	茶農林1号	多田系インド導入種実生	1953			茶業試験場(金谷)
いんど	茶農林12号	インド雑種実生	1953			鹿児島県茶業試験場
はつもみじ	茶農林13号	Ai2×NkaO5	1953			鹿児島県茶業試験場
べにたちわせ	茶農林14号	Ai2×NkaO1	1953			鹿児島県茶業試験場
あかね	茶農林15号	Ai2×NkaO3	1953			鹿児島県茶業試験場
べにかおり	茶農林21号	Ai21×NkaO3	1960			鹿児島県茶業試験場
べにふじ	茶農林22号	べにほまれ×C19	1960			茶業試験場(金谷)
さつまべに	茶農林25号	NkaO3×Ai18	1960			鹿児島県茶業試験場
べにひかり	茶農林28号	べにかおり×CN1	1969			茶業試験場(枕崎)
べにふうき	茶農林44号	べにほまれ×枕Cd86	1993	1995	第4591号	野菜・茶業試験場(枕崎)

1)登録年:種苗法に基づく品種登録年

2)育成者権者は表1を参照

別表6 中間母本登録品種

登録番号 (品種名)	出願時の名称	来 歴	命名登録年	登録年 ¹⁾	登録番号	育成場所 ²⁾	主要特性
茶中間母本農1号	チャツバキ1号	さやまかおり×ヤブツバキ	1988	1992	第3047号	野菜・茶業試験場(金谷)	耐病虫性
茶中間母本農2号	IRB89-15	やぶきた放射線突然変異	1994	1998	第6449号	農業・生物資源研究所(放育) 野菜・茶業試験場(金谷)	自家和合性
茶中間母本農3号	IMAKURA1号	インドからの導入実生	1998	2002	第10244号	野菜・茶業試験場(枕崎)	高タンニン・高カフェイン・花香
茶中間母本農4号	KM8	金Ck17×さやまかおり	2004	出願中		野菜茶業研究所(枕崎)	クワシロカイガラムシ抵抗性
茶中間母本農5号	KM62	金Ck17×さやまかおり	2004	出願中		野菜茶業研究所(枕崎)	クワシロカイガラムシ抵抗性
茶中間母本農6号	F95181	タリエンシス×おくむさし	2004	出願中		野菜茶業研究所(枕崎)	高アントシアニン

1) 登録年: 種苗法に基づく品種登録年

2) 旧野菜・茶業試験場の育成品種は現在(独)農業・食品産業技術総合研究機構、旧農業・生物資源研究所(放育)は現在(独)農業生物資源研究所が育成者権者

別表7 命名登録・品種登録をされなかった主な品種

品種名	用 途	来 歴	育成年	育成場所
ほうりよく	煎茶	多田系印雑の実生	1956	静岡県茶業試験場
するがわせ	煎茶	やぶきた自然実生	1962	静岡県茶業試験場
ふじみどり	煎茶	不明	1962	静岡県茶業試験場
くりたわせ	煎茶	静岡在来実生	1966	鹿児島県茶業試験場
ゆたかみどり	煎茶	あさつゆ自然実生(系統名:Y2)	1966	茶業試験場(金谷)
やまかい	煎茶	やぶきた自然実生	1967	静岡県茶業試験場
くらすわ	煎茶	やぶきた自然実生	1967	静岡県茶業試験場
おいおいわせ	煎茶	やえほ×やぶきた	1976	静岡県茶業試験場
ごこう	玉露・てん茶	宇治在来実生	1954	京都府立茶業研究所
うじひかり	玉露・てん茶	京都在来種	1954	京都府立茶業研究所
あさひ	玉露・てん茶	宇治在来実生	1954	京都府立茶業研究所
こまかげ	玉露・てん茶	宇治在来実生	1954	京都府立茶業研究所
さみどり	玉露・てん茶	京都在来種	1954	京都府立茶業研究所
おぐらみどり	玉露・てん茶	京都在来種	1954	京都府立茶業研究所
うじみどり	玉露・てん茶	宇治在来実生	1985	京都府立茶業研究所
からべに	紅茶	中国湖北省実生	1956	静岡県茶業試験場
ただにしき	紅茶	多田系インド導入種実生	1958	静岡県茶業試験場
べにつくば	紅茶	茨城県在来種	1958	真壁地区農業改良普及所